

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道27号 <small>かなやま</small> 金山バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：福井県敦賀市坂下 至：福井県三方郡美浜町佐田			延長	7.5km	
事業概要	一般国道27号は、福井県敦賀市を起点とし、京都府京丹波町に至る延長約140kmの主要幹線道路である。金山バイパスは交通混雑の緩和や沿線地域の活性化を目的として計画されたバイパスで、将来開通予定の美浜東バイパスや敦賀バイパス、近畿自動車道敦賀線や供用中の北陸自動車道と一体となって、福井県の広域道路ネットワークを形成する道路である。					
S47年度事業化	S49年度都市計画決定 (H3年度変更)	S50年度用地着手	S53年度工事着手			
全体事業費	約390億円	事業進捗率	81%	供用済延長	7.5km	
計画交通量	22,500~32,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 2.1 (残事業) 2.6	総費用： (残事業)/(事業全体) 68/715億円 事業費：55/684億円 維持管理費：13/31億円	総便益： (残事業)/(事業全体) 179/1,527億円 走行時間短縮便益：165/1,443億円 走行費用減少便益：10/68億円 交通事故減少便益：4/16億円	基準年： 平成18年		
感度分析の結果	残事業（事業全体）について感度分析を実施） 交通量変動：B/C=2.9（交通量+10%） B/C=2.4（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.4（事業費+10%） B/C=2.8（事業費-10%）					
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化の支援（特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる） 他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	金山バイパスは、沿線地域の交通混雑の緩和や沿線地域の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、敦賀市長より早期整備の要望（平成17年12月7日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	金山バイパス沿線地域は、人口推移がほぼ横ばい傾向にあるものの、人口あたりの自動車保有台数は増加傾向にある。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに全線を暫定供用（内、4.4kmを4車線供用）している。用地買収は全て完了している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	ルートに近接している医療用牧場（現在、廃業）との調整等に時間を要した。近畿自動車道敦賀線の供用に合わせ、平成20年代半ばを目途に4車線化整備を推進する。					
施設の構造や工法の変更等	トンネル発生土の有効活用等により、コスト縮減に努めながら事業を推進する。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

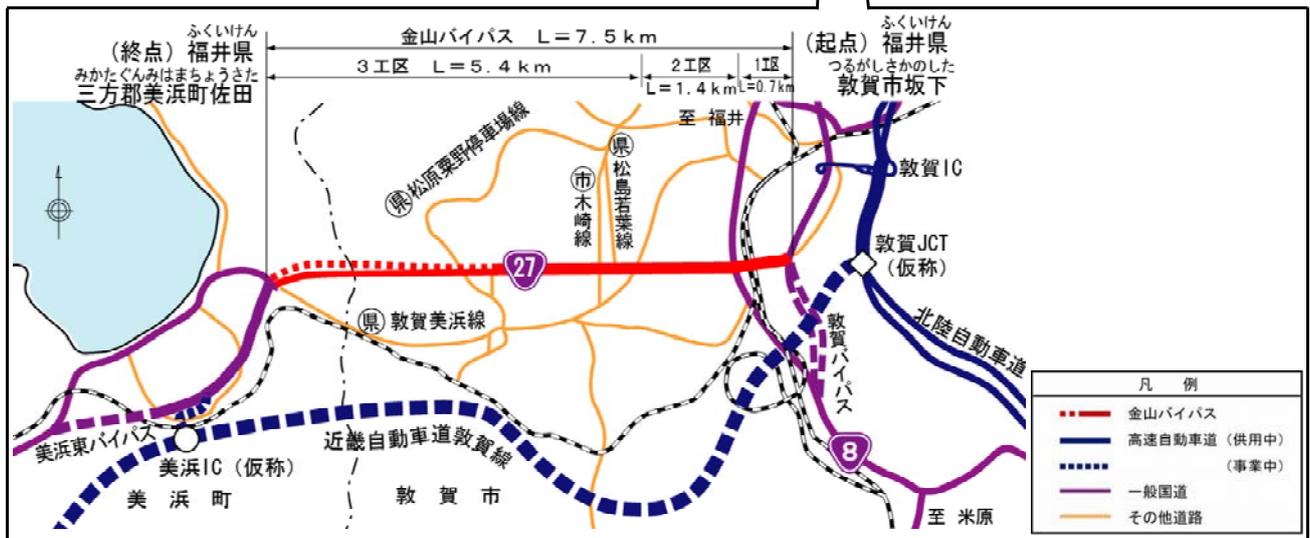
※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
 担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道27号 <small>かなやま</small> 金山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自： <small>つるが さかのした</small> 福井県敦賀市坂下 至： <small>みかた みはま さた</small> 福井県三方郡美浜町佐田	延長	7.5 km		

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。